

## 国内経済要録

### 外国為替引当貸付利子歩合の変更

本行は、海外諸国の金利水準の変動に即応して、外国為替引当貸付の利子歩合を次の通り改訂し、それぞれ下記日付以降に外国為替銀行が買取つた手形を引当とする貸付から実施することとした。

	改訂前	改訂後	改訂日
連合王国 通貨表示分	日歩1銭1厘	日歩1銭1厘5毛 〃 1銭7厘	9月14日以降 9月26日
アメリカ合衆国	〃 1銭	〃 9厘5毛	9月28日
ドイツ連邦 共和国	〃 1銭2厘5毛	〃 1銭1厘5毛	9月25日

### 英蘭銀行の公定歩合引上げに伴う本邦為替金融関係金利の変更

英蘭銀行が9月19日公定歩合を5%から7%に上げたのに伴い、ロンドン市中金利もおおむね2%上昇したため、大蔵省は東銀を除く外国為替銀行に対する外貨預金金利を9月26日から年3%を5%に引上げ、また外国為替銀行は次の通り為替金融関係金利を9月19日以降の引受ないし貸出実行分に遡して改訂した。

	新利率	旧利率	(サービスレート)
アクセプタンス (豪州の場合)	9.69	8.24	(7.74)
[為銀マージン]	0.5	1.1	(0.6)
リファイナンス	9.025	7.65	(7.40)
自行ユーザンス	9.125	7.65	(7.40)
現地貸付	8.250	6.25	(—)

なお英蘭銀行は、英国所在銀行が9月20日以降開設する信用状につき、非ポンド域居住者に対するリファイナンスの供与および非ポンド域居住者相互間の貿易決済についてのユーザンスの供与を禁止したため、今後わが国のポンド輸入についてはリファイナンス方式によるポンドユーザンスは使用不可能となつた(9月上旬末ポンド外銀ユーザンス残高53百万ポンド、うちリファイナンス残高33百万ポンド)。

### 英ポンド先物為替相場の自由化

政府は最近の諸情勢にかんがみ、9月25日英ポンド先物取引につき次の措置を実施した。

- (1) 英ポンド先物相場の公定を廃止し、外国為替銀行が自由に相場を建てうることにする。
- (2) 外為会計の英ポンド先物取引は売買とも廃止する。

なお、政府は本措置の実施と並行して、外国為替銀行の米ドルおよび英ポンド為替それぞれの直・先物総合持高につき各行ごとに限度を設けこれを規制することとした(ただし直物持高の売持禁止は従来通り)。

### 米ドルユーザンス金利の引下げ

ニューヨークにおける一流銀行引受手形の割引レートの低下に伴い、外国為替銀行では米ドルユーザンス金利を年利8%方引下げて年利6.25%以上(サービスレート年利6.0%)に改め、10月1日以降引受分から実施した(現地貸付金利は年利6.375%以上、サービスレート年利6.125%で措置)。

### 商工組合中央金庫の貸出金利引上げ

商工組合中央金庫では、本年4月貸出金利の引下げを行ったが、その後預金金利引上げ、債券の条件改訂など資金コスト上昇要因が増大したので、次の通り貸出金利の引上げを行い9月24日以降新規貸出分から実施した。

	新利率	旧利率
手形貸付	日歩 2.7銭	日歩 2.65銭
貸付		
期限1年未満	〃 2.7銭	〃 2.65銭
〃 2年	年 10.5%	年 10.0%
〃 2年以上	〃 11.0%	〃 10.5%
当座貸越	日歩 2.9銭	日歩 2.8銭

### コール自粛レートの引下げ

コールレートについては7月15日以降自粛措置が採られてきたが、このほど財政散超期を迎え市場の引緩みが予想されるに至つたのに即応し、全銀協では関係銀行の申合せとして自粛レートを現行の中心日歩3銭、最高同3銭5厘から中心日歩2銭8厘、最高同3銭の線まで引下げることと決定、10月10日新規契約分から実施した。

### 昭和32年度下期外貨予算決定

政府は9月26日閣僚審議会を開き、昭和32年度下期外貨予算を決定した。

その内容は輸入貨物予算1,652百万ドル(うち予備費80百万ドル)、貿易外支予算357百万ドル(うち予備費30百万ドル)、合計2,009百万ドルとなつている。予算規模としては上期当初予算に比し635百万ドル、また期中568百万ドルもの追加予算が組まれた前年同期に比し、実に870百万ドルの大幅圧縮となつている。

今期予算の特色はおおむね次の通りである。

- (1) 予算編成方針の転換……最近の外貨事情悪化にかんがみ、下期国際収支の均衡化を大前提とし、重要原材料の輸入についても必要最少限度に抑えた。
- (2) A A制拡大の見送り……従来のA A制拡大を今期は一応見送り、金額の削減はもとよりA重油、軽油、モリブデンなどについては9月27日からその適用を停止した。